



内子座 藝於遊



柱脚支持金物製作と検査

令和8年9月17日、耐震補強のために取り付ける柱脚支持金物の検査が行われました。それに先立って11日にはその製作が完了しており、その最後の作業を取材させていただきました。

今回製作した金物は21個。複雑な金物の溶接には技術が必要です。厚みや接続部分の形状が異なる金物を迷いなく溶接していく様子は、とても簡単そうに見えますが、それも職人のなせる技です。



写真上左は、かたどられた材料の金物を組み立てたところです。この金物は5つのパーツで組み立てられています。溶接の際に組立部分がずれないよう、別の金物を取り付けて固定します。そして、結合部分の形や工程により、材料を変えながら溶接していきます。その右の写真は溶接途中のものです。固定用の金物がついているのがわかるでしょうか。また、L字型を作っているパーツの組立部分が溶接されています。

右列の写真は、9月17日に行われた柱脚支持金物検査の様子です。寸法などが正確であるかはもちろん、見た目ではわからない溶接した部分の内部に傷や空洞がないかなど、超音波を使って検査しました。製作した金物の溶接部分にセンサーをあてると、その跳ね返りによって、器具に表示されるグラフに線が現れます。その線が一定であるかどうかを見極めながら、目には見えない内部の確認が行われました。結果は良好と判断され、この後、メッキ処理が施されて内子座に納品され、取り付け作業が始まります。



▲写真上：金物と図面を照らし合わせながら、すべての寸法が確認されていく。構造補強を担当する会社もリモートで参加した。

▲写真下：超音波検査の様子。器具のモニター画面に現れたグラフの線を見ながら、内部が正常であることを確認している。